

## 看護部

### (1)看護部の理念と方針

#### 看護部の理念

国立成育医療センターの職員である看護部職員は、国立成育医療センターの使命である小児医療、母性・父性医療及び、関連境界領域を包括する医療の向上のため中核的、指導的、且つ先駆的医療の看護実践者である事を自覚し、医療チームにおける役割を適正に達成するよう努力する。

#### 方針

- 1) 生命と人間性を尊重したあたたかい看護を行います
- 2) 安全と安楽を重視した看護を行います
- 3) 成長発達を助け、更に QOL を配慮した看護を行います
- 4) 患者中心の医療を提供するためのチーム医療を行います
- 5) アメニティ及び利便性を重視した快適な環境を提供します

### (2)看護部の概要

平成 14 年 3 月 1 日に助産師 26 名、看護師 310 名、看護助手 17 名、診療部との併任で治験リサーチナース 1 名、移植コーディネーターナース 1 名、遺伝カウンセリングナース 1 名、国立の施設で初めて保育士 6 名が配置されて国立成育センターの看護部がスタートした。

4 月 1 日には新採用者 83 名、転入者 5 名を加え 426 名の看護職員を配置した。

10 月 1 日には看護職員 10 名と専任リスクマネージャー 1 名、臨床教員 1 名が増員され 438 名となった。病棟は 3 月 1 日に、4E 病棟、4W 病棟、6W 病棟、7E 病棟、8E 病棟、10E 病棟が開棟となった。外来は救急センターを含め全稼動であったため、開棟されていない病棟の看護職員での応援体制を組み、職員一丸となって取り組んだ。

3 月 14 日 8W 病棟開棟、4 月 1 日 6W 病棟開棟、4 月 22 日に 7W 病棟、9E 病棟、9W 病棟、10W 病棟、11E 病棟が開棟し、国立成育医療センター看護部の活動が本格的に起動した。

平成 14 年度看護部の目標は、1) 業務内容の確立、2) 電子カルテシステムの活用、3) 現任教育の推進強化、4) 感染防止・事故防止、5) チーム医療の推進、6) 病院経営に積極的に参加を挙げ取り組んできた。業務内容の確立は、当センターの基本構築に添って、電子カルテシステムを始め、SPD システム、アメニティ端末を効率的に運用することで業務の安定化を図ることを第一義として努力した。また教育・研修についても教育委員会の研修に加え、各委員会や専門分野でのトピックス研修などを積極的に行った。各看護単位においても、各々必要な研修を企画し実践し当センターの看護職員として必要な能力育成に力を注いだ。

海外から研修生として、中国より 2 名の看護師を 11 月より 6 ヶ月間、ICU、NICU で

受け入れ研修をおこなった。看護・助産学生の受け入れは国立病院東京医療センター附属東が丘看護助産学校看護学科89名、助産学科35名、国立病院東京災害医療センター附属昭和の森看護学校39名であった。

また、当センターの情報システムや病院設備等の見学者が多くあり、その対応に看護部として役割を果たした。

### (3) 研修

#### 院外研修参加状況

厚生労働省・厚生局関係

研修会名	主催	研修期間	参加人員
医療技術者等研修	関東信越厚生局	14.10.11～11.12	大竹 恵子
実習指導者講習会	関東信越厚生局	14.10.7～11.29	小山 陽子
診療報酬事務関係研修会	関東信越厚生局	14.3.26	野口 美穂子
診療報酬事務関係研修会	関東信越厚生局	14.7.23	浦川 由紀子
副看護師長研修	関東信越厚生局	14.7.17～19	小沼 徳恵 斉藤 千恵子
東京都実習指導者研修	看護協会	36日間	工藤 真奈 多田 知子
感染管理	国立看護大学校	14.10.2～15.3.31	島田 知子
リスクマネジメント	関東信越厚生局	14.12.2～4	山元 恵子
医療安全教育研修	関東信越厚生局	14.11.11～15	渡部 みどり

治験・遺伝・移植

治験コーディネータ養成研修	看護協会	14.7.15～8.2	清水 裕子
治験推進研修	医療研修推進財団	14.6.14	清水 裕子
移植コーディネータがんセンター研修		14.5.13～15	佐々木 祥子
臓器移植と看護の役割	看護協会	14.7.1.～7.5	佐々木 祥子
遺伝看護教育プロジェクト	聖路加看護大学	14.8.8～8.10	三原喜美恵
遺伝相談セミナー	日本遺伝カウンセリング学会	14.8.4	三原喜美恵

## 院内研修参加状況

研修会名	年 月	内 容	参加者数
看護師としての自覚と役割	14年5月	自己の看護感が培える。レポート Gw	23名
接遇	14年6月	講義 基本的な接遇 挨拶 身だしなみ 言葉使い 電話の対応 時間・規則の厳守 医療従事者としての基本的態度	72名
看護研究2	14年5月 15年1月	看護研究について 講義 研究発表	23名 23名
対象の理解 1	14年6月	講義 「乳児・幼児・学童の成長発達と対応について」 「思春期・青年期の特徴と対応について」	65名
2	14年6月	ロールプレイ 「患者をとりまく家族や人々への看護介入の方法がりかいできる」	22名
3	14年7月	講義「インフォウムドコンセントの意義と看護師の役割」 GW	28名
看護過程の展開2	14年10月	フィジカルアセスメント 講義 GW「患者の状態変化を予測した観察ができ優先順位を考えたたいしょがわかる。」	23名
看護過程の展開	14年11月	個人指導「受け持ち患者の看護過程を見直し自分の課題を明確にできる。」	62名
安全の判断 1	14年5月	講義 GW「看護行為を安全に実施するための確認方法が理解できる。」	60名
安全の判断 2	14年7月	講義「事故発生時の対応ができる」	23名
安全の判断 3	14年10月	事例検討「危険の予測と予防ができ、事故防止の対策をたてることができる。」	30名

チーム医療 2	14年11月	講義、体験学習「医療チームの一員として行動するためのリーダーの役割が理解できる。」	22名
チーム医療 1	14年12月	体験学習 講義 GW 「メンバーシップ 医療チームの一員としてのメンバーの役割が理解できる。」	58名
リフレッシュ研修	14年6月	講義 「メンタルヘルス」	86名
夏季セミナー	14年7月	講義 ショックについて 脳神経外科手術について ソーシャルワーカーについて 胎児医療 心のケア	111名 83名 63名 74名 81名
秋季セミナー	14年10月	講義 褥創の外科的治療 治験とCRC 腎移植について 移植コーディネータの役割 成育医療と遺伝カウンセリング	69名 49名 84名 63名

## 研究発表

題名	発表者	所属	学会名	月日
産婦・家族と共に共有できるパルとグラムを作成	阿部 聖世	6W	第43回日本母性衛生学会	14・9・5
電子カルテにおけるプレグノグラムの活用	五十嵐美和	6W	第3回看護情報研究会	14・6・29
ベッドサイド端末を装着した医療情報システムの構築	渡部 みどり	外来	看護情報研究会	14・6・29
出生直後からの母乳育児についての母親の心理的变化とその支援	若松由紀子	6W	第57回国立病院療養所総合医学会	14・10・18
電子カルテシステムにおける看護過程の展開	上野 省子	9E	第57回国立病院療養所総合医学会	14・10・18
国立成育医療センターにおけるベッドサイド端末機能と役割	西村 里子	外来	第57回国立病院療養所総合医学会	14・10・18
国立成育医療センターにおける SPD システムと看護バーコード活用による物品の供給システム	千葉 早苗	4W	第57回国立病院療養所総合医学会	14・10・18
国立成育医療センターにおける SPD システムと看護 SPD 導入後の病棟における物品管理システム	大竹 恵子	8W	第57回国立病院療養所総合医学会	14・10・18
国立成育医療センターにおける電子カルテシステムの構築	山元 恵子	リスクマネージャー	第57回国立病院療養所総合医学会	14・10・18
物品管理の一元化と分娩第4期の母子看護の向上	三浦 寿子	6E	第57回国立病院療養所総合医学会	14・10・18
看護実践に役立つ電子カルテシステムを目指して	小林 路子	4W	第57回国立病院療養所総合医学会	14・10・18
国立成育医療センターにおける遺伝子診療の現状	三原喜美恵	遺伝カウンセリング	第57回国立病院療養所総合医学会	14・10・18

題名	投稿者	所属	雑誌名	発表年月日
小児気管支喘息患者の 発作時のケア	岩間 小苗	9E 病棟	プチナース	2002 年 10 月号
SPDシステムと手袋の標準化 - 手袋に求 められるコスト効率 -	山元恵子	看護部	日本ラテックス研 究会会誌	Vol.6 No.1 2002
成育医療における看護の役割 - 健やかな次世代を育む子どもと家族への 支援 -	山元恵子	看護部	小児看護	2002 年 11 月号
国立成育医療センターの機能と役割 (1) 先進医療の提供	地蔵愛子	看護部	小児看護	2002 年 11 月号
国立成育医療センターの機能と役割 (2) 子どもと家族への支援	地蔵愛子	看護部	小児看護	2002 年 12 月号
国立成育医療センターの機能と役割 (3) 感染防止と環境への配慮	山元恵子	看護部	小児看護	2003 年 1 月号
ベッドサイド端末によるセフティ・コントロール	山元恵子	看護部	医療情報システ ム研究会	2003 年 2 月 15 日
成育医療における看護の役割	山元恵子	看護部	日本児童家庭文 化協会機関誌	2003 年春
新しいシステムと外来看護	渡部 みどり	外来	小児看護	2003 年 3 月号

#### (4) 保育士業務

成育医療センター開院 1 年目、保育業務の確立を目指して 3 月オープンと同時に保育活動をはじめた。

医療現場におけるスタッフの一員として保育をどのように提供していったらよいのかという課題の中、今年度は小児 6 病棟において保育士 1 名体制で保育を提供してきた。

保育の中では、遊びを通じた成長発達の援助をはじめ、患者様の Q O L の向上を目指した様々な遊びや関わり、家族への援助を主に行っている。これらの保育活動については 6 月より書面で、10 月より電子カルテ上に保育テンプレートを立ち上げ記録している。

平成 14 年度の主な活動を以下の通りにまとめる。

月 / 日	項 目	内 容
3 / 1	保育士業務開始	成育医療センター保育士業務（案）に基づいて活動開始
4 / 1	保育士業務マニュアル提出	保育士業務（案）の見直し
5 / 1 ~ 2	『こどもの日会』開催	8 西、9 東西病棟にて実施
23	保育士 6 病棟対応へ	7 東西、8 東病棟での保育活動開始
6 / 7	保育記録開始	書面にて保育内容を記載
7 / 4	『七夕会』開催	7 東、8 西病棟にて実施
15	電子カルテへの記録開始	看護記録を利用し保育内容を記載していく
19 ~ 25	『お店やさんごっこ』開催	7 西、8 東西病棟にて実施
8 / 1 ~ 6	『夏祭り』開催	7 東、9 東西病棟にて実施
10 / 18	保育ホームページ開設	
25	テンプレート使用開始	保育内容を保育テンプレートへ記載開始
29 ~ 31	『ハロウィン』開催	7 東西、8 西、9 東西にて実施
12 / 18 ~ 24	『クリスマス会』開催	7 東西、8 東西、9 東西病棟にて実施
1 / 27	保育計画（案）提出	保育士会議にて保育計画実施に向けての保育の標準化発表
2 / 3 ~ 7	『豆まき会』開催	
12	保育記録マニュアル作成	7 東西、8 東西にて実施
3 / 3	『ひな祭り会』開催	
24	平成 15 年度活動計画（案）提出	7 東西、8 東西、9 東西にて実施 保育士会議にて提出